



2023年1月から各地域でパイロットプロジェクトが本格始動するJICAと中米統合機構(SICA)が共同で実施している「SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト、(以下、同プロジェクト)」。

同プロジェクトが活動するのは中米・カリブ海(ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマおよびドミニカ共和国のSICA加盟8カ国で展開)。北米大陸と南米大陸を結ぶ中米・カリブ海は、日本の九州と四国を合わせた程の狭いエリアでありながら多種多様な動植物が生息しており¹、世界有数の生物多様性の「ホットスポット」となっています。ホットスポットとは高い生物多様性を有しながら、人間による破壊の危機に瀕している地域を指します。右の地図(図1)にあるように中米・カリブ海は生物多様性保全において重要な地域となっています。

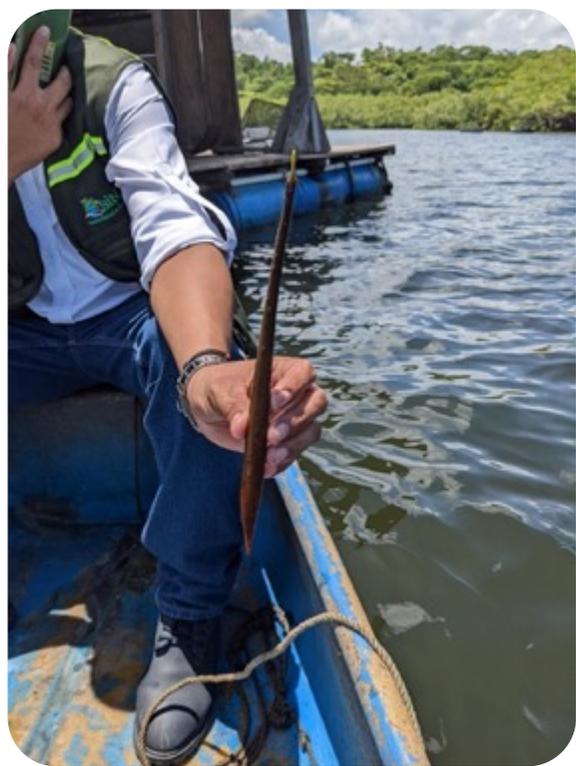


図1. 出典: "Hotspots Revisited", Conservation International 2004

2014年に福山雅治さんが中米コスタリカも訪れたNHKスペシャル「ホットスポット 最後の楽園」のシリーズ番組を観て、ホットスポットという言葉を目にしたという方もいるかも知れません。

今月号のニュースレターでは同プロジェクトが活動するフォンセカ湾(エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアを結ぶ太平洋に面する湾)にも分布する「マングローブ林」にスポットを当てていきます。マングローブは多種多様な動植物を育む生命のゆりかごであり、生物多様性において重要な生態系です。また、マングローブ林の底には泥炭(枯れた植物が長期間、あまり分解が進まずに堆積したもの)と呼ばれる温室効果ガス・二酸化炭素の高密度な吸収源があり、気候変動緩和に役立つことが期待されています。² 一部のマングローブ林では、マングローブの泥炭堆積物が地下10メートル以上に広がっており、1万年以上前のものであることがわかっています。³

マングローブは、洪水の緩和、水の浄化と貯留、漁業生産、木材生産、帯水層の涵養、海岸線の保護と安定化に貢献し、台風・ハリケーンから地域社会を保護するための自然の防壁としても貢献しています。⁴



同プロジェクトのカウンターパートであるニカラグア環境省保護官が持つレッドマングローブの種 (*Rhizophora racemosa* G. Mey.)



同プロジェクトの対象村落のあるニカラグアのパドレ・ラモス河口保護区。マングローブが生い茂るフォンセカ湾では持続可能な漁業への支援が求められている。

日本にも分布するマングローブ

マングローブ林、実は東南アジアを中心に私たちの住むアジアに一番多く分布するって知ってましたか？日本では沖縄県の西表島や石垣島、宮古島、また鹿児島県の奄美大島にも生息しています。

しかしながら、中米のフォンセカ湾でも東南アジアでも海岸沿いの湿地がエビ養殖場などの拡大や燃料のための伐採によって、マングローブ林が危機に瀕しています。⁵ よって、同プロジェクトでは現地の漁業組合などを通じて持続可能な漁業での生計向上に取り組み、マングローブの植林活動を行う予定になっています。

私たちの暮らしとマングローブって関係あるの？

日本のスーパーで売っているエビ・ブラックタイガーの養殖場のための湿地開発、紙や合板、ホームセンターで買えるバーベキュー用の木炭など、私の生活に欠かせないものもマングローブを原材料としています。また、台風やハリケーンが襲ってきた場合にも、マングローブ林が沿岸部の防波堤として機能してくれています。⁴

マングローブ林の減少は私たち日本人にとっても他人事ではありません。マングローブ林が破壊されれば、土壌に貯められた炭素が一気に大気中に放出され、地球温暖化がさらに加速してしまいます。² また、生命のゆりかごであるマングローブ林の貴重な生物多様性を失うことになります。マングローブ林を保全することは、**国連の持続可能な開発目標（SDGs）の13「気候変動に具体的な対策を」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」**を達成するためにも重要です。私たち消費者にも責任ある行動が求められています。



プロジェクト対象村落との話し合い（エルサルバドル）。住民の生計向上と生物多様性保全の両立が求められる。



環境省保護官との話し合い（ニカラグア環境省MARENA）。

参考リンク：

JICA 国際協力機構『プロジェクトホームページ』
https://www.jica.go.jp/project/all_c_america/005/index.html
JICA 国際協力機構『ODA 見える化サイト』
<https://www.jica.go.jp/oda/project/1701704/index.html>
SICA 中米統合機構『OAR（地域環境プラットフォーム）』（スペイン語）
<https://www.sica.int/oar/>

NHK オンデマンド『NHK スペシャル ホットスポット 最後の楽園』
<https://www.nhk-ondemand.jp/program/P201000070600000/>
ISME 国際マングローブ生態系協会（琉球大学農学部内）
<http://www.mangrove.or.jp/>

出典：

- 1 UNEP-WCMC (2016). The State of Biodiversity in Latin America and the Caribbean: A mid-term review of progress towards the Aichi Biodiversity Targets. UNEP-WCMC, Cambridge, UK. <https://www.cbd.int/gbo/gbo4/outlook-grulac-en.pdf>
- 2 Page, S.E., Rieley, J.O., Banks, C.J. (2011). Global and regional importance of the tropical peatland carbon pool. *Global Change Biology* 17, 798-818. <https://doi.org/10.1111/j.1365-2486.2010.02279.x>
- 3 Matthew Costa (2014). Muestreo de Turba en Manglares del sur del Golfo de California. dataMares. InteractiveResource. <http://dx.doi.org/10.13022/M3PP40>
- 4 Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales (MARN), El Salvador (2021). Impulsamos la reforestación y la restauración ecológica de manglares. Publicado el 05-08-2021. <https://marn.gob.sv/impulsamos-la-reforestacion-y-la-restauracion-ecologica-de-manglares/>
- 5 Polidoro, B.A., Carpenter, K.E., Collins, L., Duke, N.C., Ellison, A.M., Ellison, J.C., et al. (2010). The Loss of Species: Mangrove Extinction Risk and Geographic Areas of Global Concern. *PLoS ONE* 5(4): e10095. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0010095>

執筆：

JICA/SICA（中米統合機構）生物多様性保全プロジェクト専門家
博士（森林生態学） 稲川 武
tinagawa@sica.int